広 報 広 聴 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

１　視察期間

令和８年８月６日（木）１４：００～　１日間

２　視察都市

（１）静岡県静岡市

３　参加者

芦川和美委員長、永井新次副委員長、髙塚静子委員、伊藤克之委員、本間昭男委員

江塚　学委員、根津康広委員

随行　大村至広主任

４　視察事項

（１）「しずおか市議会だより」について

５　考察

次のとおり

Ⅰ　静岡市　人口：664,669人・面積：1,411.93㎢（令和８年６月末日現在）

１　「しずおか市議会だより」について

（１）　概要

情報取得の中心がスマートフォンに移行し、SNSや動画、ニュースアプリ等に集中している。紙面は読まれにくく、短時間で理解できる内容が求められている。

令和５年度の電子アンケート（約100人回答）では毎回、たまに読むが約40%、ほとんど読まない、読まないが約60%を占める結果となった。読まない理由として「届いていることを知らなかった」「内容が難しい」「興味がない」等が挙げられ、認知度の低さが課題とされた。

市民は簡潔でわかりやすい言葉を使った記事や、イラストや写真を用いた視覚的に理解しやすい紙面を求めている。よって、専門用語の使用を控え、親しみやすさを重視した紙面づくりが必要とされる。

広報紙のリニューアルの具体的内容としては、タイトルを「静岡市議会だより＆You」に変更し、キャッチコピー「みんなで作る静岡の未来」を採用した。写真やイメージを多用し、親しみやすい雰囲気を演出。カラーは淡いブルーとグリーンを基調に爽やかな印象を与える配色を採用した。

広報紙作製の予算は編集委託費は年間約77万5,000円（4回分）、印刷費は約446万6,000円である。また、市議会公式Xを活用しているが、フォロワーは伸び悩んでいる（8/7現在フォロワー287人）。

（２）　考察

静岡市議会では、「開かれた議会」の実現を目指し、市議会だよりのリニューアルに取り組んでいた。市民に市政への興味・関心を持ってもらい、シビックプライド（まちづくりの当事者意識）を醸成することを目的として、「読む」よりも「見てわかる」ことを重視し、写真やイラストを効果的に活用した見やすく分かりやすい紙面づくりを進めており、大変参考になった。

静岡市では市の広報紙と市議会だよりが合冊となっており、そのリニューアルに向けては様々な戦略（ターゲットのペルソナ設定、スマートなデザイン、読みやすさ）があり、現在、磐田市でも検討している市議会だよりのリニューアルに大変参考になった。市議会だよりのリニューアルにより市民にとって身近で親しみやすい議会広報が実現できることを学んだ。

また、市の広報紙と市議会だよりを一体化し、一度の配布で済むようにすることで、配布に係る負担やコストの軽減を図っている点なども含め、今後は、磐田市議会としても紙面のリニューアルに加え、SNSや動画など多様な情報発信媒体を積極的に活用し、特に若い世代へのアプローチを強化するとともに、市民が市政や議会をより身近に感じられる広報活動の充実に取り組んでいきたい。